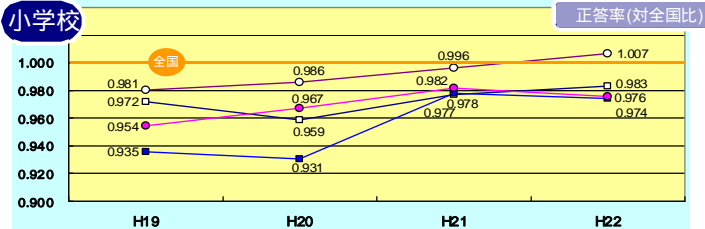


調査目的: 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
 対象学年: 小学校6年生・中学校3年生・特別支援学校(小学部6年生・中学部3年生)
 調査内容: 小学校(国語・算数)・中学校(国語・数学) 主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題
 調査方式: 抽出調査および希望利用方式(大阪府の抽出 小学校135校10540人[13.2%]・中学校147校216437人[30.9%])

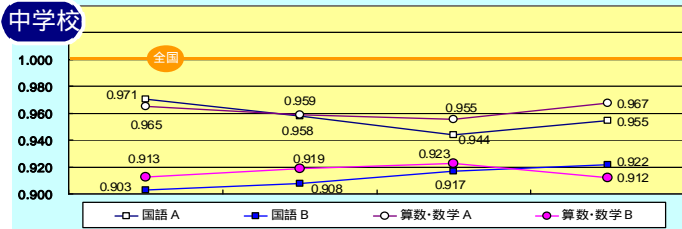
校種・教科・区分別正答率比較 / 対全国比経年比較

	大阪府	H19			H20			H21			H22		
		全国	差	大阪府	全国	差	大阪府	全国	差	大阪府	全国	差	
小国	A区分	79.4	81.7	-2.3	62.7	65.4	-2.7	68.3	69.9	-1.6	81.9	83.3	-1.4
	B区分	58.0	62.0	-4.0	47.0	50.5	-3.5	49.4	50.5	-1.1	75.8	77.8	-2.0
小算	A区分	80.5	82.1	-1.6	71.2	72.2	-1.0	78.4	78.7	-0.3	74.7	74.2	0.5
	B区分	60.7	63.6	-2.9	49.9	51.6	-1.7	53.8	54.8	-1.0	48.1	49.3	-1.2
中国	A区分	79.2	81.6	-2.4	70.5	73.6	-3.1	72.7	77.0	-4.3	71.7	75.1	-3.4
	B区分	65.0	72.0	-7.0	55.2	60.8	-5.6	68.3	74.5	-6.2	60.2	65.3	-5.1
中数	A区分	69.4	71.9	-2.5	60.5	63.1	-2.6	59.9	62.7	-2.8	62.5	64.6	-2.1
	B区分	55.3	60.6	-5.3	45.2	49.2	-4.0	52.5	56.9	-4.4	39.5	43.3	-3.8

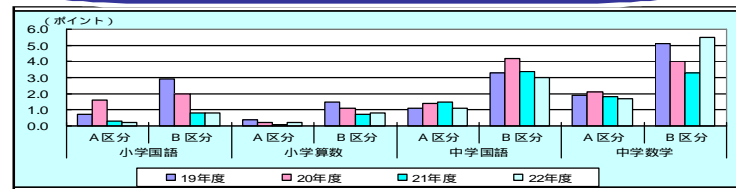
小学校



中学校



校種・教科・区分別無解答率対全国差経年比較



本調査は抽出調査であるため、分析に用いる平均正答率等の数値は全国において±0.2%、都道府県において±1.0%以内の幅を有している
 したがって、平均正答率の数値には、次の表に示す範囲で幅があることを踏まえ、成果・課題等を判断する必要がある。

	小国A	小国B	小算A	小算B	中国A	中国B	中数A	中数B
大阪府	81.1~82.7	74.8~76.9	73.7~75.7	47.0~49.2	71.0~72.3	59.3~61.1	61.4~63.6	38.4~40.6
全国	83.2~83.5	77.7~78.0	74.0~74.4	49.1~49.5	75.0~75.2	65.1~65.5	64.4~64.8	43.1~43.5

(平均正答率の95%信頼区間)

(1) 学力調査結果の概要

小学校においては、算数A区分において全国平均を上回り、その他の区分、教科においてもほぼ全国平均に並んだ状況である。

中学校においては、全国平均との差は縮小しつつあるものの、依然として全国平均との差は大きい。

平均正答率の全国平均との差

小学校: +0.5ポイントから -2.0ポイント(算数A区分においてのみ、0.5ポイント上回る)
 中学校: -2.1ポイントから -5.1ポイント

正答率の対全国比(全国平均を1とした場合の大阪府の割合)

小学校: 0.974 ~ 1.007でほぼ全国平均
 中学校: 0.912 ~ 0.967で全国平均との差は依然として大きい。

無解答率の全国平均との差

小学校: A区分ではほぼ全国平均に近づいているが、B区分では1ポイント近く差がある。
 中学校: 数学B区分以外は全国平均との差が縮小傾向であるが、その差は依然として大きい。

(2) 学習状況調査結果の概要

基本的な生活習慣は改善が見られる。

・「朝食を食べる児童・生徒の割合」、「宿題をする児童・生徒の割合」が増加しており、家庭への働きかけにより、子どもの基本的な生活習慣の改善が見られる。

自学自習力の向上が見られる。

・「家で計画を立てて勉強している児童・生徒の割合」は増加しており、放課後学習などの取組みにより、家庭で自学自習できる子どもが増加しつつある。

学習規律の取組みには、さらなる工夫が必要。

・「授業中の私語が少なく落ち着いていると思う学校の割合」に大きな改善はない。
 「授業規律の維持を徹底」など、さらなる指導の工夫が必要である。

基礎基本の徹底について、とくに中学校を中心に、さらに工夫が必要。

・基礎・基本の徹底に関わる指導は広がっているものの、さらなる指導内容の充実が必要。

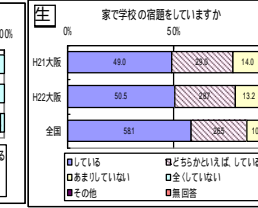
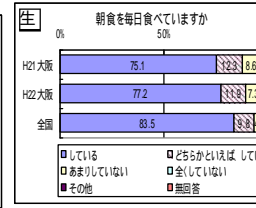
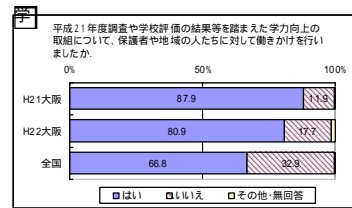
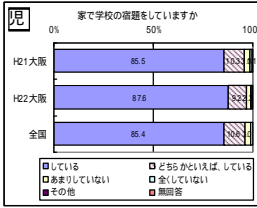
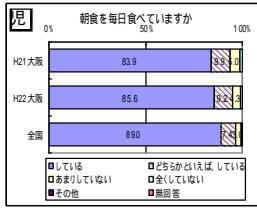
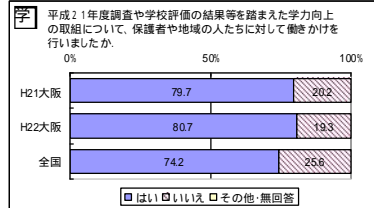
確かな授業改善が必要。

・小・中学校とも授業研究を伴う校内研修の実施回数は増加しているものの、確かな授業改善には至っておらず、さらなる授業方法の工夫改善が必要。

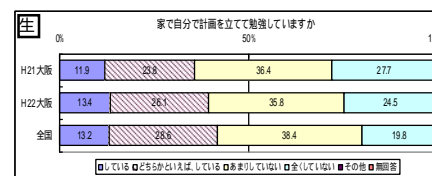
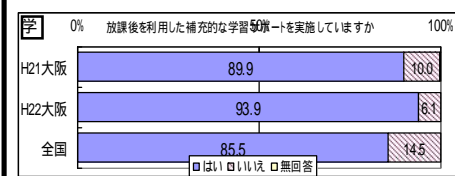
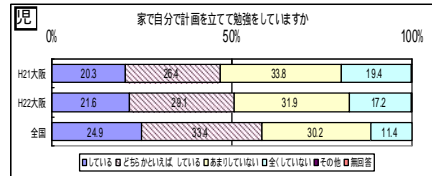
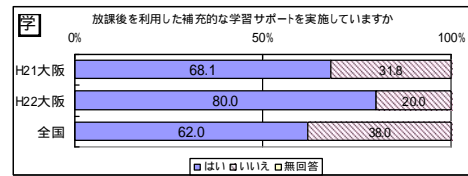
小学校

中学校

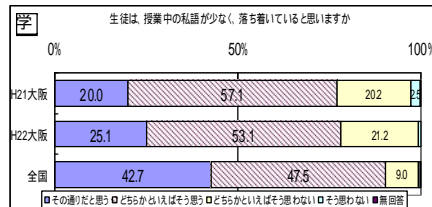
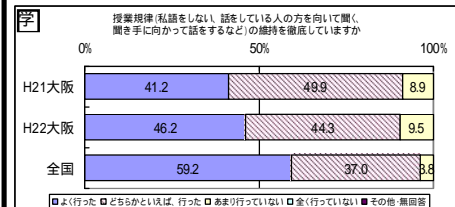
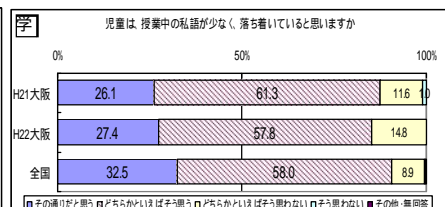
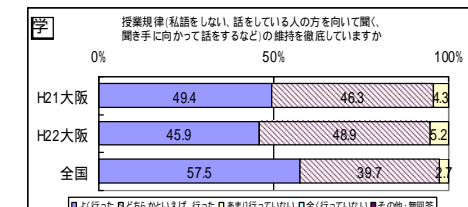
基本的な生活習慣は改善が見られる 全国平均に比べて家庭への働きかけが多く行われており、家庭での基本的な生活習慣に改善が見られる



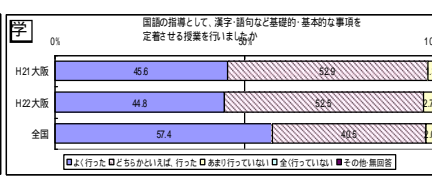
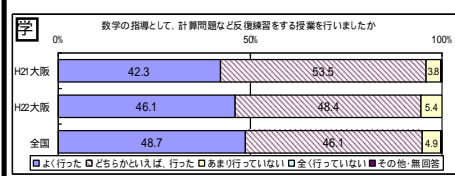
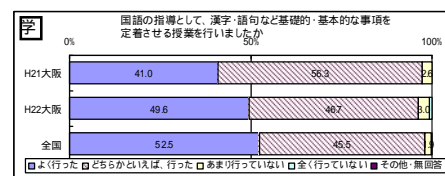
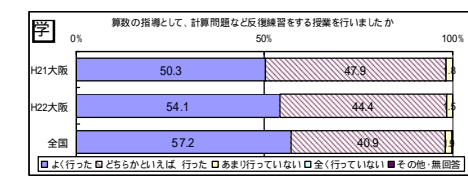
自学自習力の向上が見られる 放課後学習の取組の増加とともに、家庭学習の計画的に行う子どもが増加している。



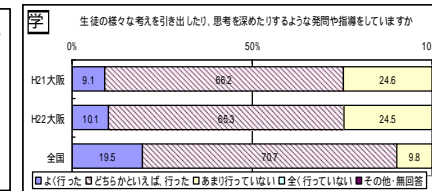
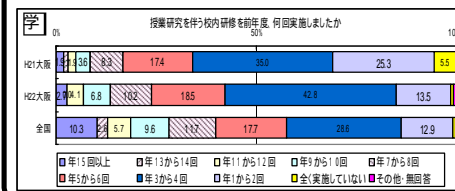
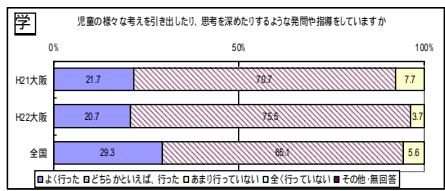
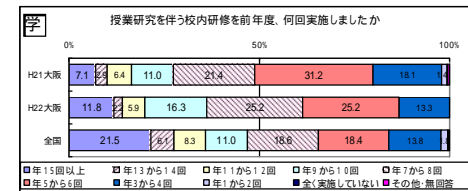
学習規律の取組に、さらに工夫が必要 授業規律において大きな改善は見られず、さらなる指導が必要である。



基礎基本の徹底について、中学校を中心に、さらに工夫が必要 計算等の反復練習の取組み等は充実してきたが、中学校における漢字・語句の反復学習は伸びていない。



確かな授業改善が必要 授業研究を伴う校内研修は増加したが、確かな授業改善には至っておらず、さらなる授業方法の工夫改善が必要。



平成22年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（概要）

【調査の概要】

調査期間 平成22年4月～7月

調査対象 小学校第5学年・特別支援学校小学部第5学年
中学校第2学年・中等教育学校第2学年・特別支援学校中学部第2学年

調査内容 実技に関する調査
新体力テスト8種目で実施
質問紙調査
児童生徒：運動習慣、生活習慣、食習慣等に関する意識等の項目
学 校：子どもの体力向上に係る地域・家庭等との連携に関する項目

【調査の抽出学校数】

◆ 大阪府の状況（政令指定都市を含む）

<小学校>

（H22年度） 121校 11.4%（全国18.7%） 9,401人（男子4,791人 女子4,610人）

<中学校>

（H22年度） 61校 12.1%（全国18.5%） 9,528人（男子4,975人 女子4,553人）

【調査の結果】

小学校5年	人数	種目別平均									合計 得点
		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ		
		kg	回数	cm	回数	回数	秒	cm	m		
男子	H21大阪府	38,411	16.70	18.95	32.31	37.73	45.20	9.41	152.20	25.06	52.58
	H22大阪府	4,791	16.54	18.88	32.48	37.78	46.31	9.42	151.68	24.77	52.42
	H22全 国	103,540	16.91	19.28	32.56	41.47	51.29	9.38	153.44	25.26	54.36
女子	H21大阪府	36,995	16.07	17.03	36.30	35.25	33.88	9.71	142.28	14.46	52.44
	H22大阪府	4,610	15.99	17.09	36.34	35.20	34.81	9.73	142.34	14.22	52.43
	H22全 国	98,643	16.37	17.74	36.74	39.17	39.65	9.65	145.20	14.58	54.89

中学校2年	人数	種目別平均									合計 得点	
		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ		
		kg	回数	cm	回数	秒	回数	秒	cm	m		
男子	H21大阪府	31,274	29.13	26.15	41.20	48.36	414.39	78.25	8.20	189.90	20.85	39.03
	H22大阪府	4,975	28.61	25.90	40.92	48.33	416.22	79.25	8.24	188.42	20.42	38.38
	H22全 国	101,043	29.70	26.98	43.08	51.04	395.46	84.49	8.04	195.37	21.23	41.71
女子	H21大阪府	29,527	23.57	21.24	43.33	42.70	310.44	52.75	9.10	161.49	13.35	45.48
	H22大阪府	4,553	23.51	21.36	43.64	43.13	320.47	53.59	9.10	161.80	13.26	45.41
	H22全 国	95,228	23.88	22.33	44.59	44.97	294.77	56.45	8.90	166.63	13.29	48.14

【結果の概要】

- ◆新体力テストの結果は、昨年度に引き続き、小・中学校とも全種目全国平均を下回っている。
- ◆昨年度と同様の傾向として、小・中学校とも反復横跳び・20mシャトルラン（持久走）が全国平均より明らかに下回っている。
- ◆特に、中学校の男子が、全種目とも全国平均との差が大きい。
- ◆朝食を毎日食べている割合は、平成20年度の調査より年々改善されてきているが、全国平均と比べると依然下回っている。

資料

大阪府内の少年非行情勢について（平成22年11月末現在）

1 刑法犯少年の検挙・補導状況

		19	20	21	21.1~11	22.1~11	増減	増減率
大阪	検挙・補導人員	10,886	9,707	9,039	8,503	7,592	-911	-10.7
	うち 触法少年	2,504	2,289	2,131	1,997	1,989	-8	-0.4
	触法少年の割合	23.0	23.6	23.6	23.5	26.2	2.7	—
全国	検挙・補導人員	121,128	108,534	108,311	97,953	93,988	-3,965	-4.0
	うち 触法少年	17,904	17,568	18,029	16,398	16,045	-353	-2.2
	触法少年の割合	14.8	16.2	16.6	16.7	17.1	0.3	—

刑法犯少年の検挙・補導人員は全国で2番目に多い人員であるが、うち、触法少年の補導人員は全国最多で、平成21年中までは28年連続で最も多い人員となっている。

全国の触法少年の補導人員（H22.11末）

第2位東京～1,895人、第3位広島～897人、第4位愛知～878人

2 刑法犯少年に占める中学生の割合

		19	20	21	21.1~11	22.1~11	増減	増減率
大阪	刑法犯少年	10,886	9,707	9,039	8,503	7,592	-911	-10.7
	中学生	5,084	4,527	4,335	4,066	3,753	-313	-7.7
	%	46.7	46.6	48.0	47.8	49.4	+1.6	—
中学生の割合（全国）		36.3	38.2	40.3	40.2	40.0	-0.2	—

刑法犯少年を学職別で見ると、中学生が全体の約5割を占め、非行の中心的存在となっており、全国平均を9.4ポイント上回っている。

3 少年による街頭犯罪

		19	20	21	21.1~11	22.1~11	増減	増減率
街頭犯罪検挙・補導人員		3,719	3,116	2,896	2,751	2,456	-295	-10.7
少年の占める割合（%）		62.7	58.0	59.4	59.4	60.6	+1.2	—

「ひったくり」や「路上強盗」等の街頭犯罪で検挙・補導された少年は全国で最も多く（平成21年中までは21年連続で全国最多）、成人を含めた総検挙・補導人員の約6割を少年が占めている。

平成22年11月末現在の全国順位

		街頭犯罪少年の検挙・補導人員
1位	大阪	2,456
	中学生	1,220
2位	愛知	1,797
	中学生	786
3位	東京	1,591
	中学生	531
4位	神奈川	1,464
	中学生	623
5位	福岡	1,311
	中学生	623